

【被害者の具体的な症状】

被害者は、自宅内で「ウィン ウィン」という音が聞こえるようになり、家の中の電器系統が悪いのかと思い、東京電力やJCM等に調べて貰ったが異常はなかった。「ウィン ウィン」という音は依然として続き、夜はまともに眠れず不眠が続き、イライラ、動悸、疲労、胸の圧迫、集中力の低下など体調不良が続いた。音が聞こえるようになってから約2か月後に腹痛が酷くなり、トイレで動けなくなり、脂汗も止まらず、一夜をトイレで過ごした。翌日朝一番で病院に行くと、ストレスによる急性胃腸炎の診断がなされた。

【低周波音被害とは】

低周波音被害は凡そ40Hz（ヘルツ）以下の空気振動が、一定の周波数かつ一定の音圧レベルで卓越周波数（ピーク）を形成しつつ継続するときに発生することが、汐見文隆医師の長期間の調査で判明している。

その被害は、主として労働環境下ではなく、心身を休め家族が憩うための場である自宅内において生じる外因性疾患であり、一定期間経過後に発症する。低周波音症候群は個人差が著しく、同じ現場で生活しながら、非常に苦しむ人と全くどうもない人とがある。

低周波音環境に生活し続けると、だんだん苦しさがひどくなる（鋭敏化）。さらには「低周波音過敏症」というべき状況となるというものである。